



やるきほんききさき 木佐木

神奈川県議員

日本共産党

2023.10.25

木佐木たまたさ news

発行：党横浜北東地区委員会

横浜市鶴見区潮田 3-147-6

TEL：045-511-1021

Profile

- ▶1984年 山口市県出身
- ▶鶴見区馬場在住
- ▶神奈川大学法学部卒
- ▶よこはま健康友の会会長
- ▶横浜東民商顧問

当事者の願いに応えない当事者目線ってなに？



重度障害者の医療費助成拡充を進める時

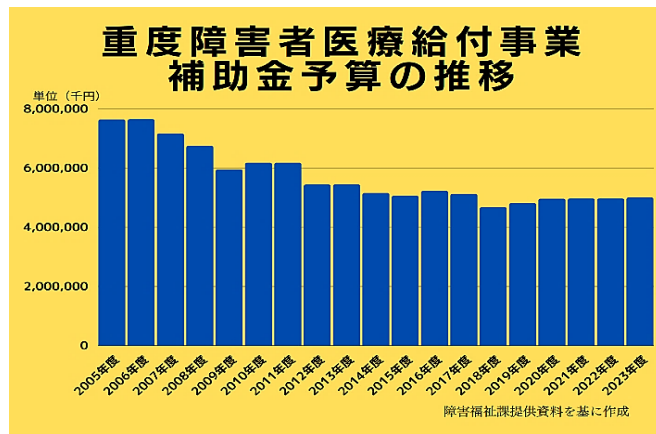
【木佐木】障害者団体、県議会、県内市町村から重度障害者医療費助成制度の拡充が求められている。県は小児医療費助成を前進させたように、重度障害者への支援も前進させる時。黒岩県政として重度障害者医療費助成の対象を精神障害1級の入院、2級の方へと拡大をすべきと考えるが、知事の見解を伺う。また、高齢者に優しい街を謳う神奈川県は、65歳以降に重度障害を負った方を助成対象から外してしまう年齢制限を撤すべきと考えるが、知事の所見を伺う。

【知事】県としては、現行制度をしっかりと維持していくことが重要と考える。制度の見直しには、実施主体である市町村の財政負担も生ずることから、市町村と意見交換をしていく。

重度障害者医療費助成制度は、全国統一の制度とするべきと考えており、国に対し要望していく。

身体障害者の補助犬に医療費支援を

【木佐木】補助犬の医療費について、横浜市では年間約500万円の予算で、市内34頭の補助犬に対して医療費を助成している。横浜市以外の自



年齢制限を導入して以降、予算がどんどん減ってきている

治体で支援は行われておらず、県獣医師会が1頭当たり年間4万円を上限に補助を行っている。現在、県内には76頭の補助犬がおり、仮に県内76頭の補助犬に年間10万円の医療費の助成をしたとしても760万円であり、県の予算規模からすれば極極極わずかな予算で実現できる。知事の言葉の本気度が、問われている。

障害があっても、ともに暮らしていける神奈川であるために、横浜市のように日常生活に不可欠な補助犬の健康維持のための医療費について支援すべきと考えるが、知事の意気込みを伺う。

【知事】補助犬の医療費については、現在神奈川県獣医師会による助成が行われているので、県が補助を実施することは考えていない。

県は、今後も障害者への補助犬の提供や補助犬に対する理解促進を図り、障害者が地域で安心して暮らすことができるよう努めていく。

【感想】当事者目線や、共生社会と言いながら、具体的な経済的支援を拒む知事。言行一致でなければ県民からの信頼を得ることはできないのではないのでしょうか。

動画はこちらから→

